

(仮称) 奈良県林業・木材産業振興プラン(案)の概要に関する 政策検討会議 第1回委員意見(中間報告)

1 「搬出コストの低減」について

- 「高級材を選んで出す林業」から「A・B・C材全てを搬出して多用途へ供給する林業」へ転換するには、いかに搬出コストを下げるかが大きな課題。そのためには、奈良型作業道の整備などへの対応を計画に入れておくべきである。

2 「プランのフォローアップ」について

- 平成22年度に作られた「奈良県森林づくり並びに林業及び木材産業振興条例」、「公共建築物における”奈良の木”の利用推進指針」に基づいての様々な取り組みの成果や課題を総括したうえで、このプランに結びついてくると思うが、林業市場や生活の安定という点で成果があがるように、プランのフォローアップも考えて頂きたい。

3 「需要を増やす取り組み」について

- 需要を増やすには、例えば、県庁舎での木材使用をどの程度進めていくのかなど、県としての積極的な取り組みが求められる。需要の拡大についての具体的な数値目標なども盛り込んで頂きたい。

4 「担い手づくり、住み続けられる集落づくり」について

- 林業に携わって支えていける人達が、林業で食べていければ、いろんな形で山間地域で働こうという意欲も湧いてくると思う。実際、山間地域での生活が成り立たないと難しいので、担い手の育成や山間地域で住み続けられる集落づくりが必要である。
- 山村が維持されないと山を守っていくことができない。人口が減少している状況の中で、集落を維持していく取り組みも同時に必要である。
- 一番ネックになるのは担い手で、そこに住んでいる人が林業に従事するだけでは人は足りない。就労者の労働環境の整備とともに、U、I、Jターンなど、新たな林業就業者の確保が必要である。

5 「研究体制の強化」について

- 新たな木材利用方法の研究や検討が必要。例えば、木材から飼料、医薬品、プラスチックのようなものなど、様々な活用方法について、森林技術センターなどでの研究体制を強化することも検討し盛り込んで頂きたい。

6 「再造林」について

- 山からの伐り切り出しを中心に進めていくことは大切なことだが、なかなか儲からない産業である状況の中で、山にもう一度木を植えるのはなかなか難しい。
しかし、奈良にとって吉野杉、檜は大切な財産である。木を伐り出すにあたって、再造林について考えて行く必要がある。

7 「川上・川中・川下の一体となつての取り組みの推進」について

- 若い林業労働者が定着するように川下、川中、川上が一体となつて取り組まれない。

8 「木質バイオマス」について

- C材には木質バイオマスとしての需要があるとのことなので、A・B・C材が山から一体として伐り出されるとともに、しっかりと使われるよう取り組まれない。

9 「ブランド力の保持・底上げ」について

- 吉野材は、A・B・C材全てにブランド力があると思う。B材を合板に使うのであれば、吉野杉を使った合板としてのブランド力の底上げが必要。丹精を込め、成長を遅らせてまでもしっかりとした木を作ってきたという吉野杉の文化を残さないと吉野杉の長所が活かされないので、ブランド力をしっかりキープした計画にされたい。

10 その他

- パブリックコメントもされると思うが、広く、いろんな形で意見を募って、当事者も含めて県民の参加ができる形で計画を練り上げて頂きたい。